

沈黙は金か

工学部長 佐々木 和 夫

皆さんは、多年の学業がなって社会人としての一步を踏み出されるわけですが、それにちなんで一言申し述べます。

皆さんよく御承知のとおり、雄弁は銀、沈黙は金という西洋のことわざがあるし、論語には巧言令色鮮矣仁という格言があります。それぞれの意味するところも御承知でしょう。両者相通ずるところもあるし、いささか内容的に異なるところもあるのですが、ここでは深く詮索することはやめましょう。申したいことは、いつも沈黙は金だろうか一度考えてみて下さいということです。

日本人は、その長い文化の所産でもあるのでしょうか、公的な場での発言に対して一般には極めて慎重です。慎重に発言するのは良いが、慎重のあまり発言しないことが多いのは困ると言いたいのです。

無責任な、他愛もない雑談をベラベラしゃべりまくるということは、幼児性を脱し切っ

ていない証拠のようなもので、少なくとも大学を卒業した知識人のすべきことではありません。そのことはまず第一に心がけておいていただきたい。雄弁が銀なら、ワケもない雑談は泥ということでしょうか。かと言って、公的な場で、ただうつつむいているのが美徳かと言えば、とんでもない。私に言わせれば、責任回避にしか過ぎません。たしかに公的な場で発言すれば必ず責任がついて回ります。しかし、責任を生ずるから嫌だというのはなくて、己に責任を課すために発言する勇気と積極性を持ってほしいのです。

責任を負わずに済むのはたしかに安易ですが、安逸に流れやすい。責任を背負いこむと、それを果すべく努力せざるを得ません。努力は必ずや報われるでしょう。少なくとも、各人のこの世における存在の証しとなるでし